

# 第6講座 古文

## ■ 要点のまとめ

### ◆ 古文読解の基礎

(1) 歴史的かなづかい（現代かなづかいに直して読む）

① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」↓「わ・い・う・え・お」

【例】 あはれ↓あわれ 思ふ↓思う かほ（顔）↓かお

② ゐ・ゑ・を↓い・え・お

【例】 ゐ（居）る↓いる こゑ（声）↓こえ をとこ（男）↓おとこ

(2) 古語の意味

① 現代語と似た形で意味が違うもの

【例】 うつくし||かわい。 かなし||せつないくらいいいらしい。

なかなか||かえつて。 おどろく||目がさめる。

ののしる||大声で騒ぐ。 あからさま||ほんのちよつと。

② 現在では使われていない言葉

【例】 ゆかし||知りたいと心が引かれる。 げに||ほんとうに。

### ◆ 古文の読み取り方

内容を大まかにつかみ、作者の考えを読み取る

(1) 言葉の意味の切れ目に注意する……何度も読み返して言葉の意味の

切れ目をとらえて、文章の大まかな内容をとらえる。音読をすると言葉

の意味の切れ目がとらえやすくなる。

(2) 敬語に注意する……だれのだれに対する敬語かを押さえて、人物関

係を読み取る。

(3) 作者のものの見方、感じ方をとらえる……随筆や日記では、作者が

どのような考え・感想を述べているかをとらえる。

## ことわざ・故事成語

(1) 次の——線部を漢字に書き直しなさい。

① 孫のたんじょうを祝う。

② 海がまんちようになる。

③ 社会のきりつを守る。

④ 今年はだんとうだ。

⑤ リーダーの指示にしたがう。

⑥ 完成にいたる。

(2) 次のことわざの中から似た意味をもつものを二つずつ三

組・選び、記号で答えなさい。

ア 果報は寝て待て

イ 鬼の居ぬ間に洗濯

ウ 医者の不養生

エ 泣きっ面にはち

オ 待てば海路の日和あり

カ 紺屋の白袴

キ 渡る世間に鬼はない

ク 弱り目にたたり目

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

(3) 次の故事成語の意味をあと

から選び、記号で答えなさい。

① 蛇足 ② 画竜点睛

③ 季下に冠を正さず

ア 最後の大事な仕上げ。

イ 疑われるような行為は慎

むべきである。

ウ 無用の付け足し。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

うれしきもの、まだ見ぬ物語の一を見て、いみじうゆかしとのみ思ふが、残り見出でたる。さて、心おとりするやうもありかし。

人の破り捨てたる文を継ぎて見るに、おなじ続きをあまたくだり見続けたる。いかならむと思ふ夢を見て、おそろしと胸つぶるるに、ことにもあらずあはせなしたる、いとうれし。

よき人の御前に、人々あまたさぶらふをり、昔ありける事にもあれ、今きこしめし、世にいひける事にもあれ、語らせ給ふを、我に御覧じ合はせてのたまはせたる、いとうれし。

(清少納言『枕草子』第二七六段)

〔現代語訳〕

うれしいもの。まだ読んだことのない物語の第一巻を読んで、たいそう続きを読みたいとばかり思っていたのが、そのあとの巻が見つかった(、そんなとき)。ところが、それも、かえってがっかりする場合もあるのだ。

人が破り捨てた手紙を継ぎあわせて読んでいるとき、同じ続きを何行も読み続けられたの(はうれしい)。どうなることであろうと思われる夢を見て、おそろしいことだとひやひやしているときに、特別なことでもない夢判断をしてくれたのは、とてもうれしい。

高貴な人の御前で、人々が  お仕えしている際、昔あったことにせよ、また現在お聞きになった話で、いま世間で評判になっていることにせよ、お話しになるのに、私に目をお向けになって仰せられるのは、とてもうれしい。

号で答えなさい。

問二 ―― 線①「きこしめ(す)」は尊敬を表す言葉ですが、何という言葉の尊敬語ですか。二字で書きなさい。

問三 ―― 線②「読みたい」とありますが、これは古文中のどの言葉にあたりますか。三字で書き抜きなさい。

問四 ―― 線③「それも」とありますが、このあとに補う言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 読まないでいると

イ 読もうと読むまいと

ウ 読めそうもなくて

エ 読んでみると

問五  にあてはまる、古文中の「あまた」の現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア おおぜい

イ あちらこちら

ウ いつでも

エ 用事もないのに

オ

問七 「うれしきもの」の例は、古文中にいくつ挙げられていますか。

問一  線 a c のうちで、意味・用法の異なるものを一つ選び、記

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

にしとみといふ所の山、<sup>①</sup>絵よくかきたらむ屏風をたてたらむやうなり。片つかたは海、浜のさまも、寄せかへる波の景色も、いみじうおもしろし。もろこしが原といふ所も、砂子のいみじう白きを二三日行く。「夏はやまと撫子のこくうすく錦をひけるやうになむ咲きたる。これは秋の末なれば見えぬ」といふに、なほところどころはうちこぼれつつ、あはれげに咲きわたれり。もろこしが原に、やまとなでしこも咲きけむこそなど、人々をかしがる。<sup>④</sup>

(菅原孝標女『更級日記』)

\*1 やまと撫子 植物の名。

問一 線①「絵よくかきたらむ屏風をたてたらむやうなり」とありますが、これは何を表したのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 屏風にかかれた絵のすばらしさ
- イ にしとみの景色のすばらしさ
- ウ 立ち並んだ屏風のすばらしさ
- エ 山の景色を絵にすることの楽しさ

問二 線②「うちこぼれつつ」は「散り残っている」という意味ですが、何が散り残っているというのですか。文中から書き抜きなさい。

\_\_\_\_\_

問三 線③「咲きわたれり」とありますが、咲いている場所を文中から書き抜きなさい。

\_\_\_\_\_

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二十日ばかりありて、この女の居たる方に、雀のいたく鳴く声しければ、「雀こそいたく鳴くなれ。ありし雀の来るにやあらん」とおもひて出でてみれば、この雀なり。「忘れず来たるこそあはれなれ」といふほどに、女の顔をうち見て、口より露ばかりの物を落とし置くやうにして、飛び去ぬ。女、「何にかあらん。雀の落として去ぬる物は」とて、寄りて見れば、ひさごの種をただ一つ落として置きたり。

「持て来たるやうこそあらめ」とて、取りて持ちたり。「あないみじ、雀の物得て、宝にしたまふ」とて、子ども笑へば、「さはれ植ゑてみん」とて、植ゑたれば、秋になるままに、いみじく多く生ひ広がりて、なべてのひさごにも似ず、大きに多くなりたり。女よろこび興じて、里どなりの人にも食はせ、取れども取れども尽きもせず多かり。

- \*1 いたく 多く。
- \*2 ありし 雀 例の(以前私が助けた)雀。
- \*3 ひさご びょうたん。
- \*4 やうこそあらめ わけがあるのだろう。
- \*5 あないみじ 滑稽だ。
- \*6 さはれ 何はともあれ。
- \*7 すべて の 普通の。

(『宇治拾遺物語』)

問一 線①「出でてみれば」と動作主が同じものを、文中

の~~~~線ア〜エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

問二 線②「忘れず来たるこそあはれなれ」の現代語訳として最も

適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 忘れて来てしまおうとはなんとおろかなことだ。

イ 忘れられずに来るとはかわいそうでならない。

ウ 忘れずにやって来てくれるとは感心なことだ。

エ 忘れずに来てくれたのに悪いことをした。

問三 線③「植ゑて」を現代かなづ

かに直し、ひらがなで書きなさい。

問四 この文章のあらすじとして最も適当なものを次のうちから選び、

記号で答えなさい。

ア 以前助けた雀がひょうたんの種をたくさん持ってきたので、女

は喜んでそれを里の人たちに分けてやった。

イ 以前助けた雀がひょうたんの種を持ってきたので、女が土に埋

めてみると、秋に、食べきれないほど多くの実をつけた。

ウ 以前助けた雀がひょうたんの種を持ってきたので、子どもたち

は感心してその雀を飼ってやることにした。

エ 以前助けた雀が口から露を落として飛び去ると、そこ

からひょうたんの芽が出て、秋には多くの実がなった。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

那須の黒羽と云ふ処に知る人あれば、是より野越にかかりて直道を行

かんとす。遙かに一村を見かけて行くに、雨降り日暮る。農夫の家に一

夜をかりて、明くれば又野中を行く。そこに野飼の馬あり。草刈るをの

こに嘆きよれば、野夫といへどもさすがに情しらぬにはあらず。いかが

すべきや、されども此の野は縦横にわかれて、うひうひしき旅人の道ふ

みたがへんあやしう侍れば、此の馬のとどまる所にて馬を返し給へと貸

し侍りぬ。ちひさき者ふたり、馬の跡したひて走る。一人は小姫にて名

をかさねと云ふ。聞きなれぬ名のやさしかりければ、

かさねとは八重撫子の名なるべし

やがて人里に至れば、あたひを鞍壺に結びつけて馬を返しぬ。

\*1直道 〓 まっすぐな道。 \*2嘆きよれば 〓 頼みこんだところ。

\*3うひうひしき 〓 物なれない。 \*4小姫 〓 女の子。

\*5曾良 〓 河合曾良。芭蕉の門人で、旅に同行していた。

\*6鞍壺 〓 馬の背においてある用具の、人のまたがる部分。

問一 線①「草刈るをのこに嘆きよれば」とありますが、これはだ

れの行動ですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答え

なさい。

ア 作者 イ 農夫 ウ 野飼の馬 エ 知る人

問二 線②「野夫」が話している言葉はどこからどこまでですか。

その初めと終わりの三字をそれぞれ書き抜きなさい。

問三 この文章で、「野夫」はどんなことを心配したのですか。最も適当

なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 作者たちが道に迷うこと

イ 作者たちが馬に乗れないこと

ウ 作者たちが馬から降りられないこと

エ 作者たちが馬を返してくれないこと

問四 この文章で、「野夫」はどんなことを心配したのですか。最も適当

なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 作者たちが道に迷うこと

イ 作者たちが馬に乗れないこと

ウ 作者たちが馬から降りられないこと

エ 作者たちが馬を返してくれないこと